



くまがわ



あなたの心も健康に! 健康フェスタ作品展 平成28年9月11日(日)

熊本下通りアーケード内で毎年開催されている「心の健康フェスタ 第24回精神障がい者作品展」にて作業療法活動作品の展示及び販売を実施しました。

今年4月の熊本地震後の開催という事で、下通アーケード内のビル等ははまだ修復ができておらず、ビルは補強した状態の中での展示会開催となりました。どの団体の作品展示も工夫され

ており、スタッフの方々とも意見交換ができる良い機会になりました。今回は昨年よりも客足が少なく感じましたが、来場された方から展示・販売した作品に対し「全部手作りですか。すごいですね」等の声が聞かれました。今後も患者様の作品展示の場として院外での作品展に参加していきたいと思います。

深田 耕

Contents

- 2P●新年のごあいさつ
- 3P●音楽について思うこと
 - 制服リニューアル
- 4P●イベント紹介
 - ふれあい祭り ●看護協会バレー
 - 球技大会
- 5P●イベント紹介
 - クリスマス会 ●おせち料理 ●お茶会
- 6P●訓練報告
 - 防犯訓練 ●心肺蘇生訓練
- 7P●精神保健福祉大会
 - 精神学会

理念

地域社会に信頼される精神科医療をめざし、患者様に安全で安心される質の高いあたたかさと感じの医療を提供します。

基本方針

1. 満足していただける医療を行います。
2. 快適な院内環境に努めます。
3. 専門知識の向上に努めます。

患者様の権利

1. 個人として、その人権を尊重される権利
2. 自分の受けている治療について知る権利
3. 良質の医療を受け、選べる権利
4. 公平で差別されない医療、及び、対応を受ける権利
5. 安心、安全な環境で治療を受ける権利

■ 新年のあいさつ



理事長・院長 宮本憲司朗

明けましておめでとうございます。

昨年は熊本地震に翻弄された1年でした。私も熊本市内に住んでいますが、生まれて初めて体験する、大きな地震に遭遇し、生命の危機を実感する経験をしました。病院のスタッフの皆さんもそれぞれに被災され、全壊した中、大渋滞の中、車中泊をしながら、収束しない余震の中、業務を全うして、患者様の安全・安心を守っていただき、心から感謝いたします。

当病院は震源地の近くの病院と比べると、ほとんど被害がなく、被災した病院から患者様を若干名お引き受け致しました。被害の大きかった病院では、患者様を全員病院外へ避難させ、病院の建物が復旧するまで病院に患者様がいない状況が続きました。しかし、夏ごろまでには、当院でお預かりした患者様は無事に、元の病院へお戻りになりましたので、その後はほとんどの患者様が元に戻られたことと思います。

被災された病院でも、病棟によっては病棟機能喪失が起こらなかったところがあったそうで、その病棟へは比較的早く患者様の受け入れができたそうです。

いつ何時、どんなことが起こるかわからない、想いにも寄らないことが起こってしまうことを、現実として考えなくてはならなくなりました。

そこで、今後の災害対応について考えを述べます。

まず、1月から早速、病棟の耐震検査に着手します。その後必要に応じて耐震補強も行います。災害対応訓練も大災害を想定して行います。

災害対応を考えるに当たって、まず、1) 患者様の安全を守れる病院であること、2) スタッフ自身、スタッフ家族の安全をどう守るか、3) 大災害でどこまで病院機能が耐えうるかを検討していきます。

大災害は予想もできません、どこまで災害対応できるかは予算次第などところもあります。ある程度の災害の大きさを想定して、できる範囲の予算内で建物改築、改造を、皆様のご意見を伺いながら話を進めていこうと考えています。

話は変わりますが、医療界は今大きく変動しようとしています。今話題となっている、地域包括ケアシステムでは、医療（精神科医療・一般医療）、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合いが包括的に確保しようとする動きが始まっています。その中で、特に精神科医療では精神障害者を地域で支える医療のあり方について、多様な精神疾患などに対応できる医療体制のあり方について、精神病床のさらなる機能分化について厚労省で話し合いが進められ、第7次医療計画に盛り込まれようとしています。

一般科ではすでに、地域医療構想により、2025年の病床の機能区分ごとの病床数の必要量、居宅等における医療（在宅医療等）の必要量、病床の機能分化及び連携の推進について活発な意見交換があっており、それぞれの数値も示されつつあります。

同じように、精神科医療でも第7次医療計画の中で示されてくると考えられます。当院ではこれまでも、医療計画への対応を考えながらやってきていますので、これからの変動も乗り切っていけると 생각합니다。

蒲島知事は「県民の安心・安全に直結する、誇るべき『宝』としての熊本県の医療提供体制は、関係者のたゆまぬ努力により築き上げられたものであり、医療関係者だけでなく、行政、県民が将来へ引き継いでいくことが求められています。」とおっしゃって頂いています。

八代更生病院も地域の精神科医療を今後も担っていくためには、皆様方病院スタッフを誇るべき『宝』として、安心して働いて、修練し、活躍していただける環境を提供していきたいと思えます。

今年も新しい一年が始まりました。皆さんと一緒に、明るく・楽しく・元気よく頑張っ参りましょう。

平成29年1月4日 八代更生病院
年賀式において

音楽について思うこと

医師 久野 規子

5年前に新居に引っ越して以来、音楽を聴く環境設定がなかなかできずにしばらく無音で暮らしてきましたが、ようやく最近聴けるようになりました。普段よく聴くのは、ボサノバなど軽いものが多いのですが、BGMがあるだけで毎日の家事や食事などが本当に楽しい。音楽って、こんなに気分を変えてしまうものなんだなあと思っています。

亡くなった父も、兄弟で音楽が大好きで、父がバイオリン、伯父はピアノが上手だったそうです。伝聞的なのは、残念ながら伯父は東京大学在学中に亡くなってしまったからなのですが、父はこの兄を非常に慕っていたようです。ベートーベンの熱情なども弾いていたとのことなので、なかなかの腕前だったのでしょう。

私の小さい頃は、休日の朝といえば弟と父の書斎（非常な読書家で、亡くなった際は3万冊を超える蔵書に母が途方にくれました）に潜り込み、

偏愛するベートーベンが流れる中、コーヒーの香りを嗅ぎながら、本を読む父の後ろで兄弟げんかをするというのがお決まりでした。せっかくの優雅な休日の朝を私たちに邪魔されて、父もさぞいい迷惑だったことでしょう。けれど、不思議なことに怒られた記憶などあまりなく、けんかに負けて泣く弟を抱っこしながら、決まってなぜか「かちかち山」のお話を聞かせてくれるものでした。もしかしたら、今思うと、昔話で姉にかたき討ちをしてあげていたのかもしれない。

今でもふと、何かの折にベートーベンを耳にすると、鮮やかにあの父の部屋の風景、コーヒーや本の香りまでそっくり脳裏に蘇ります。きっと父もまた、熱情や月光を聴くたびに大好きだった亡き兄を偲んでいたに違いないと思うのです。

音楽は、瞬時に気分を変えたり、記憶を呼び起こしたりする不思議な力があると思います。どんな昔の何処の文明にも音楽はあったといいます。それだけ、人の心に大きな影響を与える特別な物だったのでしょう。再び聴けるようになった音楽に、徒然思ったことでした。

ユニホームが変わりました。

看護部長 宮田 栄子

ユニホームを変えた理由が2つあります。

1つは、ユニホームが単なる仕事着ではなく、ファッション性やモチベーションに関わる要素をもつようになったという時代背景があります。

ユニホームを変更するに当たり、職員の意識調査を行ってまいりました。3年前に行った意識調査では、ユニホームのリースと洗濯出しができればいいと回答した人が7割いましたが3割の人は今のままでいいと回答しました。足並みが揃わず一度は断念いたしました。学生が職場を選択する1つの要因にユニホームの存在があるということもあり、着て楽しく働きやすいユニホームを導入することで看護職のイメージアップになり採用に一役買ってくれるのではないかと期待もありました。もう一つの理由は、アンケートの回答の中で、「小さい子供の物と一緒に洗いたくない」「家族の物と別に洗濯している」と答えた職員も多くいましたので衛生面から考えた場合、ユニホームから感染することのエビデンスはありませんが、クリーニングを併用することでこの問題は解消することができると考えました。

おとしの11月に再度、アンケート調査を行った結果、98%の職員から同意が得られましたので、アンケートの結果と目的を説明し、費用もかさむことでもあり、予算をつけてもらいました。3年がかりで導入にこぎつけたことができました。

今回は色を3色導入し、自分の意志で選び着用していいように配慮しました。また、患者さんにも優しい色・刺激の少ない色・動きやすさ等を考慮し、若いスタッフの意見をとりいれました。導入してみると個人のサイズに合わせてあるので「フィット感」がありすっきりみえます。動きやすく、定期的にクリーニングに出せるので清潔なユニホームを着用することができるようになりました。スタッフからも好評です。

4月導入を目指していましたが、熊本地震があり、業者も被災し導入が遅れてしまいました。スタッフが一同、新しいユニホームを着用し、新たな気持ちで患者さんにさらに良い看護が提供できるよう力を合わせ頑張っています。



イベント紹介

●「笑顔いっぱい」のふれあい祭り

平成28年10月15日（土） 前田マリ子

秋晴れの天気恵まれて、第18回ふれあい祭りを開催いたしました。今年度は、4月の熊本地震を経ての実施でしたが、無事に開催に至ることができました。

ステージイベントにおいては、元気な子供たちのパワーあふれる「キッズダンス」から始まり、しっとりとした大人のダンス「麦島婦人会」の方々に出演して頂きました。その後、当院スタッフで構成された人気バンドの「ハリネズミ」の演奏で場を盛り上げて頂き、メインゲストの「やうちブラザーズ」にバトンタッチ。病棟スタッフも一員に加わり、体をはったパフォーマンスに会場は笑いのうずにつつまれました。午後は、八代工業高校と清流高校の合同の吹奏楽部の演奏から開始。素晴らしい音色に感動し、場内ではカメラのフラッシュが。最後には昨年に引き続き「華紅羅」の切れのいいダンスに魅了されました。

抽選会では、子供も大人もわくわく。希望の賞品は当たりましたか？

毎年たくさんの方々のご協力で開催しているお祭りですが、今年度もたくさんのご協力をいただきました。心より感謝いたします。たくさん笑顔に私達も元気をいただいたお祭りになりました。来年も更に努力し、皆様のご期待に添えるような祭りにしたいと考えております。来年のお祭りもどうぞ遊びに来てください。



●看護協会八代支部新人交流ビーチバレー大会

平成28年10月29日 清藤 敦子

今年は当院の体育館で、八代市内の病院から16チーム参加する上記交流会が行われました。当院からは2チームの参加で新人職員を含む22名のメンバーで楽しく交流をしてきました。

昨年の優勝病院のため、選手宣誓をし気合を入れて試合に臨みました。初めは動きが硬く、ボールを繋げることができませんでした。コート

内でワン! ツー! スリー! と声を出し、チームの団結力と、周りからの大きな声援で1勝をあげることができました。

身体を動かし、声を出し、チームを応援する事で皆の気持ちが一つになり、職員としての絆を深めることができました。来年は優勝病院奪還を目指して頑張りたいと思います。

●白熱!城南球技大会!!

平成28年11月4日 内山 直人

人吉市の相良村総合グラウンド・体育館にてH28 年度城南地区秋季球技大会が行なわれました。今回は人吉で開催されましたが、城南地区の精神科に入院通院中の患者様の球技大会で、引率のスタッフも含め総勢 300 名が集まりました。

人吉は朝が寒く、霧も深かったため、開催されるか心配でした。しかし、9時の開会式の時にはそんな不安も取り払うかのような快晴となり、参加者全員元気にプレーを開始することができました。

それぞれの病院がユニフォームに袖を通し、ソフトボール・ゲートボール・ビーチバレーボール・卓球の各競技に分かれ、チームごとに得点を競いました。どの種目でも皆さん楽しそうに笑顔で参加され、応援の声が飛び交い、いつにも増して真剣な表情で頑張っておられました。

競技、応援に参加した患者様から、「とても面白かった。」「来年も参加したい。」という声もあり、充実した時間が過ごせました。普段はなかなか交流のない患者様同士も意気投合し、良い思い出になったと思います。

イベント紹介

クリスマス会に、ビックリシマス!

平成28年12月13日 岩本 美幸

12月13日にクリスマス演芸会が行われました。昨年はインフルエンザが流行してしまい、参加者が少なくなっていました。今年は多くの方に参加して頂きました。準備していた椅子が足りず、会場前は、人、人、人、でビックリしました。

5病棟の合唱、DCメンバーの合唱、スタッフバンド、今年はふれあい祭りに引き続き麦島婦人会の方々に踊りを披露して頂きました。最後には、豪華景品の当たる抽選会も大盛況で、笑顔で1年の締めくくりができました。



おせち料理御献立



栄養科

お吸い物

彩麩のお吸い物

甘味

栗の甘露煮
干し柿

御飯物

冬椿
巻き寿司

酢の物

紅白なます
梅花れんこん

煮物

煮メ(五種)
昆布巻き
牛肉の八幡巻き

揚げ物

有頭海老フライ

焼き物

ブリの照り焼き
伊達巻

お口取り

数の子
黒豆
寿かまぼこ

平成二十九年 元旦

新春のお茶会

平成29年1月13日 甲斐 春美

今年は年初めにお茶会が行われました。日頃、お宮参りに行くことができない入院患者様にお参りを体験して頂きたいと八代宮の写真やおみくじ等を準備しお宮参りの雰囲気をあじわって頂きました。

患者様からは「八代宮を久しぶりに見ることができて懐かしい」「お参り気分をあじわえた」等の感想が聞かれました。又、お抹茶と和菓子をゆっくりとした雰囲気の中でいただき、とても「ほっこり」とした気持ちになりました。今年は新春にふさわしくお茶会から始まり良い年の始まりになったのではないかと思います。



訓練報告

防犯訓練

平成28年9月2日 1病棟 平田 緑

日本中が、オリンピックの感動に湧き上がっていた7月26日、相模原市の障がい者施設で悲惨な事件がおき、深い悲しみに突き落とされました。

その事件をうけ、当院でも不審者侵入の場合の防犯訓練を職員63名と警備会社の方にも参加していただき実施しました。

夜勤帯に不審者が1病棟2階に入り込みナイフをもっているというシナリオのもと、巡視していた看護師が不審者に気が付き、気付かれないように当直医・他病棟に連絡。警察に通報するまでを行いました。事前に、役割を決めていましたが、実際となると、刺股や催涙スプレーの場所が分からず時間を要しました。

警備会社の方からは、防犯訓練において次のようなアドバイスを頂きました。

- ◆ 応援者が駆けつけるまでの時間の計画は必要。
おおよその時間は頭に入れておく。
- ◆ 刺股や催涙スプレーのおいてある場所の周知。
- ◆ 不審者が来たらまず身の安全確保。
- ◆ 刺股は、女性など力が弱い人には、逆に相手を有利にさせてしまうので注意。
- ◆ 刺股は、下肢を狙ったほうが有効で、1本より2本が良い。

参加者の感想として、定期的に訓練を重ねておくことが大切。今後も計画的に実施してほしい。などの意見がありました。

今後病院としては、夜勤者の駐車場の照明、暗いところがあるので外灯設置についての検討。警備会社や警察にボタン一つで通報できるシステム、防犯カメラの設置の検討など意見があり、できるところから取り組んでいくことになりました。

私達が、今日から出来る事は、看護部長からも話がありましたが、鍵の管理です。患者様の命をお預かりしている大切な鍵は、個人個人が危機意識を持って管理していく事が必要であると痛感いたしました。今回の取り組みは、一人一人が防犯について考えるいい機会となりました。



心肺蘇生訓練

平成28年11月1、3、7日 上野 光春
八代消防署新開分署より講師を招き全職種対象にした心肺蘇生の研修会がありました。

まずは救急時の対応を確認。①安全な位置を確認。②肩をたたいて意識や反応の確認。③周囲の助けを求める。(AEDと救急隊への依頼)④呼吸の確認。⑤胸骨圧迫へ。と一連の流れを講義、実践していただきました。

それぞれの班に分かれ、練習用の人形を使い教えていただいたことを1人1人実践していきました。消防署の方々からは「呼吸が有るのか迷う場合は呼吸が無いと判断して、胸骨圧迫に移って下さい。早く、強く、絶え間なく。」といった助言がありました。日頃から訓練されているせいか、動きには無駄が無くスピーディーかつ確実に素晴らしいと感じました。

また、1分間継続して押し続けることで命につながることも学びました。

有事の際には慌ててしまうので、落ち着いて対応する事、そのためにはこのような訓練を日ごろから行っていくことが大切だと思いました。



第54回 熊本県精神保健福祉大会

～精神科医療機関永年勤続者表彰を受けて～

平成28年10月28日 看護師 田上 三代子

先日、ホテル熊本 テルサ テルサホールにて熊本県精神保健福祉協会主催の協会表彰があり、精神科医療機関永年勤続表彰者として4名（濱田誠之、藤本 美恵子、古閑本 博子、田上 三代子）が表彰を頂きました。

式典前のアトラクションでは、「かのこ会」の大正琴の演奏披露などがあり、会場は和やかな雰囲気でも包まれていました。

その後、RKK アナウンサーの木村和也様より「再起可能～言葉でつなぐ心のきずな～」という演題で講演がありました。

テレビの中では拝見していましたが、実際にお会いするのは初めてでした。とても後遺症があるようには正直、見えませんでした。

講演会では、東京から熊本へ来られた経緯から始まり、熊本の人に道を尋ねたら「ぎゃん行って、ぎゃん～ん行って、ぎゃん～んたい」と言われた事があり、ぎゃんは右でぎゃん～んは左と勝手に解釈して、本当にそう思っていたと話され、会場は大爆笑でした。

そして、テレビ番組収録での事故で両足が不自由になった話へ。

担当医師から「歩けるようになる可能性は1%。しかし、その1%にかけるのはあなた次第」と宣告。想像を絶するような絶望の中から、沢山の同僚や仲間たち、そして家族から励まされ、過酷なりハビリを乗り越えて仕事へ復帰された話に会場の

私たちも耳を傾けていました。

長い入院生活で一日も欠かさず面会に来てくれた親友「かめきち」さん。退院時に米を何 Kg かもって来てくれたそうです。何で米かなと思っていたら、以前、面会時に病室の窓から見える田んぼの稲の生長を見ながら、「稲の刈り取りと（退院と）どっちが早いかなあ」と何気に話していたことがあり、その田んぼの持ち主さんに訳を言っけてもらってきた米だったそうです。

聞いていて涙がこぼれました。木村さんの努力と精神力もさることながら、支えてくれた同僚や友人、家族らの支えも大きな生きるエネルギーになったと思いました。

私たちも、これから八代更生病院の発展に何か少しでもお役に立てるように、尽力したいと思っています。



第62回九州精神医療学会

12月1日から2日間、沖縄コンベンションセンター会場で精神医療学会が開催されました。私達は1日目に発表しました。

クロザピンの副反応への看護介入

～腸内環境に着目して～

6病棟 板床 孝行

クロザピン使用における副反応（サブイレウス）予防のための看護介入の一つとして腸内環境改善する意義。また、介入で得られたスタッフの意識の変容について研究、発表しました。

学会という場は初めてで、

これまでに経験した事のないくらい緊張しました。発表を終えてみると、安堵感はもちろん今後の自身にとって、とても良い経験ができたと思感しました。

今回の経験と視点を大切に小さなことを積み重ね、より良い看護を提供出来るよう取り組んで行こうと思います。



「放尿のある患者への関わり

～排泄行動へのアプローチ」

5病棟 松山 則子

放尿が常同行動化している前頭側頭型認知症患者の排泄行動の傾向を調査分析し、一時間毎の排泄誘導と統一した声掛けを行いルーチン化した結果、放尿が改善し施設への退院が可能となり、行動変容プログラムとして奏功できた症例を発表致しました。さらに、外来受診時も施設スタッフへの相談対応など行い、同様の介護を施設へ繋げ1年間排泄行動の乱れが無かった事も添えて、無事に発表を終える事が出来ました。極度の緊張感で不安も大きかったのですが、理事長先生、看護部長他病棟スタッフの見守りが大きな支えとなりました。今後も知見を深め業務に取り組んでいきたいと思っています。

外来診療 ご案内

※精神科医が
担当します。

		月	火	水	木	金	土
午前	新来	○	○	○	○	○	
	再来	○	○	○	○	○	○
午後		予約外来					休診

診療 科目

精神科、心療内科、内科

受付 時間

新来 ▶ 午前 8:30～11:30(月～金)

再来 ▶ 午前 8:30～12:00(月～土)

午後13:30～16:00(月～金)

新来は予約制で月～金曜日の午前中のみとなります。

交通の ご案内



- JR八代駅から……………車で15分
- バスでお越しの際は八代駅方面から産交バス植柳経由→「南平和町」行き、又は植柳経由→「君ヶ淵」「破木」「坂本駅」行きにお乗りください
- 産交バス「千反町」バス停より徒歩3分
- ゆめバス「迎町交差点」バス停より徒歩3分

スタッフ募集

現在、医師、薬剤師、看護師、
准看護師、調理師、調理補助、
看護補助を募集しています。

委細面談

連絡は、事務長 嶋田まで、ご連絡ください。



医療法人 山田会

八代更生病院

〒866-0043 八代市古城町1705

TEL(0965)33-4205

FAX(0965)35-8275

URL <http://www.y-kousei.jp/>

mail info@y-kousei.jp